

文献

水出 靖, 藤井 亮輔, 近藤 宏, 和田 恒彦, 岡田 富広, 柏木 慎太郎, 栗原 勝美, 西村 みゆき, 柴田 健一, 高澤 史, 古川 直樹, 長谷部 光二. 多施設間連携ランダム化比較試験による慢性膝痛に対するマッサージ療法の有効性の検討 単回介入による直後効果. *理療教育研究*. 2016; 38(1): 9-17. 医中誌 web ID 2016358618

1. 目的

慢性膝痛に対するマッサージ療法の有効性を検討する。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験

3. セッティング

施術所 4 施設、通所施設 1 施設の計 5 施設

4. 参加者

膝痛患者 29 例 (平均年齢 67.9±7.7 歳)

5. 介入

Arm 1: マッサージ群 (13 例、膝関節周囲の軟部組織へのオイルを用いた 10 分間のマッサージと 5 分間の運動法)

Arm 2: コントロール群 (16 例、15 分間の安静臥床)

6. 主なアウトカム評価項目

介入前後の膝関節屈曲可動域、殿踵間距離、膝窩床間距離、疼痛出現しゃがみ込み角度、Timed Up & Go test、5m 歩行時間・歩数、疼痛の VAS

7. 主な結果

両群間の介入前後の変化は、膝関節屈曲角度、膝窩床間距離、疼痛出現しゃがみ込み角度において交互作用を認め (すべて $p<0.05$)、マッサージ群で有意に改善した (各 $p<0.01$, $p<0.05$, $p<0.01$)。

8. 結論

慢性膝痛に対するマッサージ療法は、関節機能の改善に有効かつ安全性の高い方法であることが示唆された。

9. 論文中の安全性評価

すべての参加者で明らかな有害事象は認めなかった。

10. Abstractor のコメント

慢性的な膝関節痛へのマッサージ療法の効果を検討した研究である。標準化されたマッサージ術式を用いた多施設連携 RCT により、膝関節の可動性の改善が示されており、マッサージ療法の臨床効果に関する重要な知見を示した報告である。

一方で、単回介入の直後効果のみの評価となっており、慢性的な膝関節痛への治療効果の評価としては限定的である。また、参加者の膝関節痛の原因疾患のコントロールが行われていない。加えて、症状と最も関連する疼痛の VAS に改善が認められていないが、その点に関する考察がみられない。

今後、複数回介入による中・長期的な治療効果の評価、原因疾患をコントロールした治療効果の評価が期待される。

11. Abstractor and date

福島正也 2021. 11. 25